

表2. 小池(東広島市西条町下見)の水草相の変化

調査年 月日	'80 8/7	'81 8/19	'82* 7/8	'85 7/25	'86 7/22	'87 8/2	'88 10/19	'89 7/4
オグラコウホネ(赤)	+	+	•	•	•	•	•	•
ヒツジグサ	+	+	•	•	•	•	•	•
マルバオモダカ	+	+	•	•	•	•	•	•
タヌキモ**	+	+	+	+	•	•	•	•
ヒルムシロ	+	+	•	+	+	+	•	•
ジュンサイ	+	+	+	•	+	+	+	•
ヒシ	•	•	•	•	+	+	+	+
アオウキクサ	•	•	•	•	•	•	+	+
ウキクサ	•	•	•	•	•	•	+	+

** 池と接する道路ができ、また堤防の改修工事も行われた。

** タヌキモと記録しているが、イヌタヌキモと考えられる。

体数の減少が起きている。このような池には、ヒシが 密生していることが多い。

マツモが千葉県北端に群生

齊藤吉永

ごくありふれた水草の一つであるマツモ(マツモ科)
Ceratophyllum demersum L. さえ最近では余り見られなくなりました。

池沼の水の汚れとか、マツモの生えているような水流等の改修工事等に原因はあるらしいが、昨年(1988.9)山梨県の武田信玄ゆかりの場所を尋ね歩いた折りに石和温泉街を流れる川に「マツモ」が沢山あって、仲間がブドウ狩りに夢中になっているとき私だけブドウどころか竹の棒をさがして流れの中のマツモの採集に時を費したことを思い出す。

ところが帰化植物のアメリカフウロ(フウロソウ科)
Geranium carolinianum L. やキキョウソウ(キキョウ科)
Specularia perfoliata (L.) A. DC. の多産する千葉県北端の関宿所を時折り訪れているが、この町の東側、利根川の右岸土手に近い水田の中の用水路を調べて見たら川巾約2m程の小さい流れに約1km余りにわたって水草が繁茂「クロモ」か「コカナダモ」であろうと採集して見ると全部がマツモであった。

一見似た姿の「フサモ」*Myriophyllum verticillatum*

L.やホザキノフサモ *M. spicatum* L. var. *muricatum* Maxim. (共にアリノトウグサ科)は手ざわりが軟らかいがマツモは葉の裂片に鉤状の小さな鋸歯を持っているため非常にざらついて手に持つだけで区別ができる程である。

関宿所のマツモ自生地がいつまで残るのか判らないが永続してほしいと願わずにはいられない。

(面白いというのか困るというのか実はマツモ科というの二つあって、一つは双子葉類—離弁花類のマツモ科 *Ceratophyllaceae* であり、もう一つは海藻で褐藻類のマツモ科 *Heterochordariaceae* で食用としても美味なマツモ *Heterochordaria abietina* Setchell et Gardaner があって食用にならないものと食用になるものと、真水と海水に生育するという差はあっても、科も和名も同じという現実がある)

(1989. 7. 3.)